

よいことの
ために
手を取りあおう

- ◆国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツツォ(イタリア・ラゲザRC)
- ◆第2660地区ガバナー 吉川 健之(大阪北RC)
- ◆クラブテーマ「こっから、おもしろくなるよ!」

本日例会 2025年8月21日(木) 第1008回

クラブフォーラム

テーマ「会員増強について」

パネラー 元古会員増強委員長

前回例会 2025年8月 7日(木) 第1007回

1. 開会 会長
2. 国歌斉唱
3. ロータリーソング「奉仕の理想」
4. 四つのテスト唱和
5. お客様のご紹介
卓話講師 京都宮川町 小ふくさん
6. 誕生日のお祝い 水谷会員 吉岡会員
7. ニコニコ箱報告(小計8,000円 累計56,000円)
中道会員 本日卓話よろしくお願ひします。
水谷会員 後厄中で訴訟にまきこまれてます。
8. 会食
9. 委員会報告
国際奉仕委員会 小林委員長
7/6(日)～7/8(火)RI3521地区台北長安RC
訪問報告
10. 幹事報告
 - 定例理事会報告
 1. 事務局PC購入の件(承認)
 2. 卓話実施依頼の件(承認)
 3. IM6組大阪グローバルRCチャーターナイトの件(承認)
 4. 守口市民祭り開催協賛の件(承認)
 5. 例会開催の件(承認)
 6. 地区補助金事業の件(承認)
 7. 親睦家族食事を開催の件(承認)
 - 事務局閉局連絡 8/12(火)有給休暇取得
8/13～8/15お盆休みにより閉局
 - 回覧
 - ①8/28(木)親睦食事会出欠確認回覧
 - ②11/14(金)大輪ゴルフ会参加申込回覧
 - 8月例会開催日 8/7、8/21、8/28
11. 出席報告(会員総数15名)
8月 7日 出席 9名 欠席6名 出席率60.00%
メイクアップ報告
7月 3日 出席10名 欠席5名 修正報告なし

12. 本日のプログラム

担当: クラブ運営委員会

講話: 「コロナ禍を乗り越えた花街」

講師: 京都宮川町 小ふくさん

13. 閉会 会長

○例会前の会合 定例理事会

会長の時間 「大阪万博雑感」

8月3日に万博へ行ってきました。行くのは本当に嫌だったんです。人混みが嫌い、並ぶのが嫌いなので。ただ長男は行ったことがあるのですが、次男が初めてでどうしても行きたいということでしたので行ってきました。行ってみた次男の感想は「楽しかったけど、ひらパーの方がいい」でした。朝9時に入場して閉園までいました。万博のアプリを駆使して並ぶのを減らし、事前予約も含め全部で10カ所の海外パビリオンに入場できました。本当に楽しくないものもあれば、なかなか魅力的な所もあり、感想は人それぞれだと思いますが、暑すぎて次男が鼻血を出し、普段は行けない裏のパビリオン「救護室」にも入ることができました。ミャクミャクもはじめは「気持ち悪い」と思っていたましたが、会場を出る頃には見慣れて、なんとなく良いように思えてきましたが、あれは何をあらわしたもののんでしょうか?

今回の万博は私の世代には正直あまり刺さっていませんが、両親はまた行きたいと言っていました。私の感想は、よくも悪くも今後の未来はあまり感じず、よくわからなかったという感じでしたが、水上ショーと夜の花火とドローンショーは良かったと思います。大屋根リングも木造であればほど大きなものが作れるのを知ったことは新たな発見でした。



次回例会 2025年8月28日(木) 第1009回

クラブ親睦例会(ノーマイカー例会)

担当: 社会奉仕委員会 藤井 俊章 会員

講話

「コロナ禍を乗り越えた花街」

京都 宮川町 小ふく さん



皆様こんばんは。京都宮川町のお茶屋、しげ森の小ふくと申します。

本日は例会にお招きいただきまして大変嬉しく思います。皆様には昔からとてもお世話になっておりまして、様々な宴席、パーティなどでご一緒

させていただいていること誠に感謝しております。まず、自己紹介をさせていただきます。平成3年10月に新潟市に産まれました。子供の頃から着物や芝居が好きで、中学生の頃はジャニーズよりも中村勘三郎が好き、舞妓さんのドキュメンタリー番組を見て「舞妓になったら勘三郎さんに会えるかもしれない」という下心を持ち、親を説得して15歳で京都へ来ました。1年下積み、舞妓を4年、20歳で芸妓に襟替えして13年になります。

コロナの時芸舞妓は何をしていたの？とお座敷でもよく聞かれます。最初にコロナのことを知ったのは、2020年2月3日のお化けの支度中でテレビで見たダイヤモンド・プリンス号の話題でした。その時は他人事のように見ていましたが、その後3月末に志村けんさんが、4月にはオムロンの立石社長の訃報があり、そこから一気に大変なことになったという空気が広がったように思います。それからしばらくの間、感染予防対策のためお茶屋さんは営業休止になりました。6月に感染防止のガイドラインができ、宴席では換気、ソーシャルディスタンス（1～2m）、マスク、手指消毒、お酌なし、お座敷遊びの禁止などが発表され、芸舞妓はコロナワクチンの接種と毎週CPR検査をしていました。しばらくは蔓延防止として時間短縮営業でしたが、緊急事態宣言の発令により3.11よりも宴会帳が真っ白になりました。お稽古も稽古場は蜜になるのでダメ、お師匠さんたちも県をまたぐ移動はダメ、春の京おどり中止、イベントもキャンセルというような状況が2年ほど続きました。このようは大規模な休業は戦時中以来だそうです。その間芸舞妓は何をしていたのかというと、今できることは何だろうと考え、当時マスクが不足していたのでお母さんにお裁縫を教えてもらいながら日本手ぬぐいでマスクを作りました。手ぬぐいは店出しに配る物や歌舞伎役者さんの引き出物などを使い、約470枚を京都市に寄付し、近所のお茶屋さんや料理屋さんにお配りしました。舞妓さんは15歳で京都に来てからお稽古しかしていないので、未来の花嫁修業というか生活のお稽古のようなご飯のお手伝いや、家庭菜園のお手伝いをしたり、気晴らしに早朝から伏見のお稲荷さんへコロナ終息のお願い

いにお詣りをしたりして過ごしていました。そんな営業自粛の中で「新しいかたちのおもてなし」を皆で考えました。お酒の提供もできない、人が集まってもダメということでお座敷のネット配信をしました。カメラを前に舞を舞い、お三味線を弾きました。全世界からアクセスがありました。舞の後に質疑応答の時間があり通訳の方を入れチャット形式で質問の返信をしました。他にも舞妓茶道教室としてお座敷で少人数ずつが舞妓さんのレクチャーを受けながら自分が飲むお茶をたててもらいます。コロナがなければこのようなお仕事の形もなかったのだろーと思います。もう一つネット配信の良かったところは、舞妓さんたちの親御さんやおじいちゃん、おばあちゃんにも京都で頑張っている姿を見て喜んでもらえたことです。

2023年5月から5類に移行なり、そこから約2年の現在はコロナ前の賑わいに戻った気がしますが、お客様の花街での過ごし方が変わった気がします。お茶屋は営業時間がありませんので昔のお客様は眠くなるまでお座敷で遊んでおられましたが、今はお帰りの時間が早くなって芸舞妓の夜更かしが減り、とても健康的な花街になったと思います。

コロナ前と現在のお茶屋さんの数は1軒廃業されて28軒から27軒に、芸妓さんの数は36名から32名に、舞妓さんは25名から16名になりました。先の見えない不安に街を去っていく仲間もいたので、自分もこの先どうしようかと思っていましがた、限られた制限の中でも来て下さったお客様から「久しぶりに三味線に音が聞けて嬉しかった、舞妓さんに会えて楽しかった」など、自分が悩んでいた時にお客様からの生の言葉を聞いて、やはりこの世界は続いていかなければいけないのだと改めて思い、女将さん、姉さん方、妹たちと励ましあいながらコロナを乗り越え「あの時大変だったよねー」と昔話ができると信じて、ひたすら稽古をしていました。

芸妓は私の仕事なので伝統芸能を担っているというようなおこがましいことは思っていないませんが、先輩方が守ってきたものを後輩に伝えていくことができないと、この仕事をやっている意味がないと思うので、これからも頑張っていきたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

